

持続可能な多世代共創社会のデザイン
領域およびシンポジウムについて
-目指すものとわかりつつあること-

- ① 持続可能な都市・地域のデザイン提示する
- ② そのために有効な多世代共創を促す仕組みを作る
- ③ 成果の社会実装に向けたネットワークを構築する

平成26年度～平成31年度(予定)

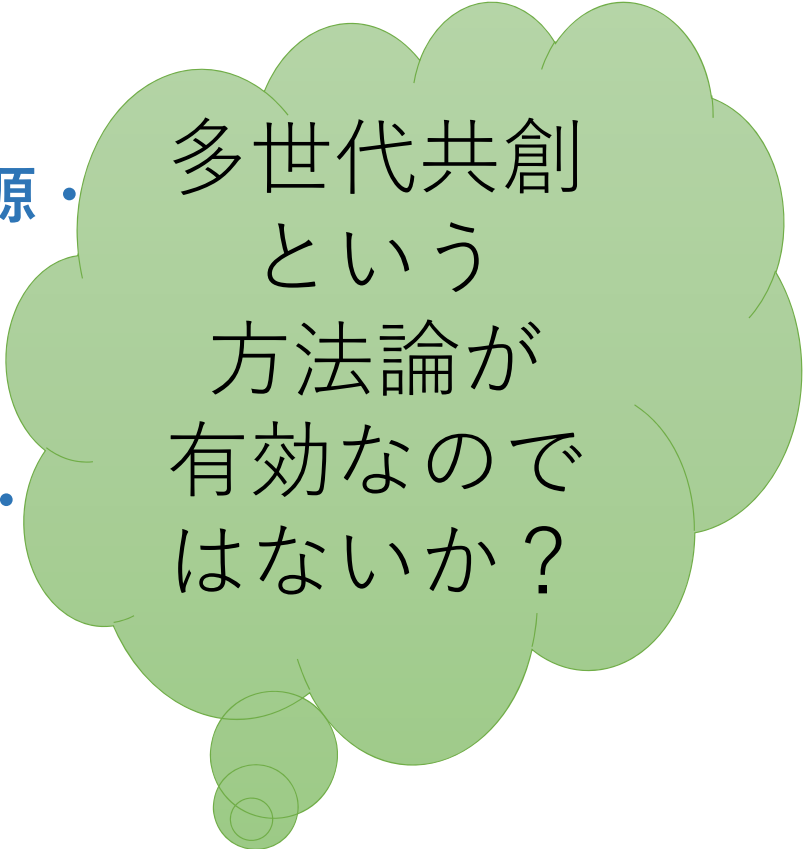
2017年3月6日(シンポジウム)

大守 隆(領域総括)

1. 目指す持続可能性とは？

持続可能性の定義は二百を超えるが、
どの定義でも実現しているとは言い難い。

- (1) 環境（温暖化、生物多様性、枯渇性資源・
- (2) 社会（過疎、格差、少子化・・・）
- (3) 経済（雇用、社会保障、財政赤字・・・
- (4) 文化（多様性、地域らしさ、・・・）



多世代共創
という
方法論が
有効なもので
はないか？

持続可能性は、先進国、途上国ともに課題
持続可能な開発目標（SDGs）にむけて多面的な努力が必要
日本から古くて新しい価値を発信できる可能性

2. 多世代共創とは？

厳密にいえば

(1) 単なる交流ではなく共創

(2) 「してあげる世代」と「してもらう世代」ではなく、
多世代が「共に」、何かの価値を「創る」。

しかし、交流の上に共創が生まれることも事実

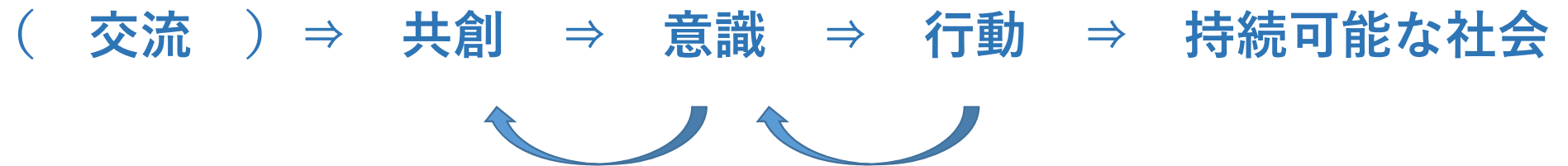
二つの多世代

① 同じ時代を生きる多世代

② 過去世代、今生きている人々、将来生まれる世代、の間の共創

3. どのようにして持続可能な社会に結び付くか？

大きな流れとしては、



時間軸

持続可能な社会の実現には時間がかかる（3年では困難）。
中間的指標を設定しつつ、うまくいっているかを見ていく必要

空間軸

フィールドから始めて、含意を抽出し、一般化・普及を目指す。
輪を広げていきたい。
地域創生への応用可能性も・・・17時からの提案・相談会

4. 16のPJが走っています

26年度採択3つ

渡辺PJから絵屏風

27年度採択5つ

島谷PJから雨水

古川PJから落語

28年度採択（最終）

一般枠（従来通りフィールドを持つもの）5つ

俯瞰・横断枠：3つ

各PJの詳細は、配布資料参照

15：55からのポスターセッションで説明

5. 何がわかりつつあるか？——5つのポイント

多世代共創は、

- (1) 高齢者を元気にし、若者にやる気を与える。
- (2) 人々に「歴史の流れの中での自分」を意識する機会を与える。
地域の歴史と自然に思いをはせ、子孫に思いをいたす。
- (3) 縦割り社会の弊害を補完する。
「ムラに所属する前の世代」と「ムラを卒業した世代」
- (4) 人々を巻き込む力を持つ。
「多世代で進めたいので参加していただけますか？」
- (5) 子供の持つ「癒す力」を少子化時代に多くの人に及ぼすことを可能にする。
同世代との交流では得られない効果、アニマルセラピーを上回る効果？

6. もちろん課題もあります

1. 効果を実証・解明すること
2. 若い人を巻き込む有効な戦略を考えること
3. 参加しない人々の分析と位置づけ
4. 各種の交流インセンティブの現代的評価と取り込み
5. 広報・普及・ネットワーク構築